

(様式1)

視 察 報 告 書

平成26年6月17日

鳥取市議会議長 様

鳥取市議会 建設水道委員会
委員長 中村 晴通



本委員会は、下記により委員を派遣し、行政視察（調査）したので、その結果を報告します。

記

1 期 間	平成26年4月22日から平成26年4月24日
2 派遣先	埼玉県所沢市 長野県飯田市
3 視察内容 (調査)	埼玉県所沢市 ・空き家条例について 長野県飯田市 ・飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域 づくりに関する条例について ・ラウンドアバウトについて
4 派遣委員 の氏名	中村 晴通 委員長 山田 延孝 副委員長 岡田 信俊 委員 桑田 達也 委員 中島 規夫 委員 角谷 敏男 委員 両川 洋々 委員 森本 正行 委員
5 委員会 所見	別添のとおり
6 参加者 所見	別紙のとおり

(別添)

視 察 先	埼玉県所沢市
調査項目	空き家条例について
(所見)	・ 22 年の条例施行後、公表まで至ったケース例はないとのこと。職員の解決するという意識が高いと感じ、防犯の担当との連携もうまくいっている。条例はつくるのが目的ではなく、つくっただけでは問題は解決せず地道な活動が大切だと感じた。 ・ 空き屋所有者との交渉は県外在住者が多く大変困難を強いられているが高い解決率を示している。更地にすることによる固定資産税の増加の問題は本市も同じであり、今後の国の固定資産税対策に期待するのはどの自治体も同じであると感じた。 ・ 指導、勧告段階で担当職員が粘り強く話し合い、指導していることで、公表することなく、罰則を設けることなく解決しているものと強く感じた。地域コミュニケーションの再構築、行政・企業・NPO 法人等が連携して空き家を有効活用することも重要である。 ・ 課題として空き家の利活用があるが、現在は危機管理防犯対策室が所管しているため、所管変更も含めた検討が必要である。本市の場合も庁内横断的な対策が求められると感じた。 罰金、代執行のようなことは実際もめるもとで、所沢市ではその前の段階で解決を目指しており、その通りだと再確認した。 ・ 本市の取り組みは始まったばかりだが、所沢市の空き家問題の解決率が条例施行時から低下している点を見れば、問題が複雑化、困難なケースがふえ今のままでは限界があるのかもしれないと感じた。 ・ 今後の課題としておられる、管理不全な空き家の未然防止、地域コミュニケーションに再構築、行政・関係機関・企業・NPO 等の連携による空き家の利活用について、今後の取り組みを注視しながら参考にしたいと感じた。

視 察 先	長野県飯田市
調査項目	飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例について
(所見)	・ 歴史的に住民自らの活動が盛んなまちで公民館を中心とした住民自治組織が確立している。住民が共同で事業を計画し、市がバックアップし資金調達が可能になる住民パワーの必要な事業だと感じた。 ・ 地域や地区を対象としたもので、それぞれの地区により太陽光、水力に適応した事業が可能となる。市街地であれば屋根の借り受けも考えられるし、中山間地では小河川を活用した水力発電も可能である。本市においても一考の余地はあると感じた。 ・ 地域が身近な再生可能エネルギーを使って持続可能な地域づくりを実現している。 ・ 本市の環境施策も単に補助金の創設にとどまらず、市民にとって何がメリットになるのかを説明し、さらには環境権という理念を住民自身が行使できるまで意識を高めることが必要と感じた。 ・ 大胆に継続させる政策として展開する決意、企業と市民の力を最大限大切にす政策の推進を基本的運営とすることが重要であると痛感した。 ・ 飯田市の取り組みの中で注目し参考にすべき点として、小型水力発電があるが、本市でも江山浄水場の配水エネルギーによる発電の検討、研究・試行中であるが超小型水力発電システムを本市山間地域での導入を検討すべきであると感じた。

視 察 先	長野県飯田市
調査項目	ラウンドアバウトについて
(所見)	・ 本市瓦町ロータリーの大型のもの。鳥取のロータリーは画期的なものだと感じた。 ・ 本市の瓦町ロータリーを想像すればイメージが浮かぶと思うが、中央島や交通島が必要なため用地の確保が伴う。本市市街地の大きな交差点でこの方式が可能かどうかは用地確保が問題である。飯田市は車の流れが順調であったが、本市市街地の大きな交差点ではむしろ渋滞を引き起こす可能性が高いのではないかと感じた。 ・ 自動車等の通行量によっては意味を成さないことや、設置面積確保の問題等があるが、現地見学し本市の交差点でも取り入れる価値があると感じた。 ・ ラウンドアバウトの特性は、安全性・円滑性・環境性・自立性が挙げられる。歩行者にも優しいデザイン性も考慮され、自立性においては災害時対応にも即しており今後注目したい取り組みであると感じた。 ・ ラウンドアバウトは色々な工夫がされており、本市で実際に出来るかどうかは別として現地を見て参考になったと感じた。 飯田市は成功した事例であるが、ラウンドアバウトの特性として挙げられている点について、導入検討には十分な準備や社会実験を市民の合意の上にもう進めるのかも具体的に示して投資額対効果をきちんと明らかにしていくことが前提であると感じた。 ・ 飯田市の取り組みは、今後の地方都市におけるまちなか交通に一つの示唆を与えているように感じた。本市が進める2核2軸のまちづくりに大いに参考になる。ラウンドアバウトやりんご並木に見られる車より人を優先した点は本市の中心市街地も見習うべき点が多いと感じた。